

◇牧師室より◇

今年の平和聖日は明治学院大学元学院長の中山弘正先生をお招きして礼拝を守った。先生は小学一年生の時、家族や疎開先の村人と一緒に玉音放送を聞いた。戦争が終わったことが嬉しくてたまらなかった。以来、平和への願いが膨らみ、平和追求が人生の課題となった。戦後の真面目な青年たちの多くは、平和と正義を実現するのは社会主義であるとマルキシズムに惹かれていった。それはソ連への憧れと重なった。先生もソ連の経済史を専攻された。

ところが、ハンガリー動乱が起り、理想化されたスターリン像は崩壊した。青年たちは、レーニン、トロツキー、毛沢東、カストロと自分の尊敬する革命家を担ぎ上げ分散した。

先生はその頃、聖書と出会った。聖書は全く異質なところから語りかけてくる。猛々しい軍馬ではなく、ロバの子に乗って入城されたイエスは「剣を取る者は皆、剣で滅びる」と語られ

た。又「あなたがたも聞いているとおりに、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。悪人に手向かってはならない。

『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と語っておられる。

先生は、武力で社会の変革を目指す革命家たちと、愛と奉仕において平和を実現するイエスの違いに心奪われていった。そこには社会変革しても、なお残っている人間の罪が深く見据えられている。

パウロは「神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです」と書いている。飲み食いという人間の歴史的現実ではなく、十字架によって罪を赦し神との和解を実現してくださった主イエスから平和はくる。主イエスが証されたこの「平和の神」に従おうと、み言葉に固く立って説教された。

週 報

1999年8月8日 聖霊降臨節第12主日

巻20

19号

1999年度 教会主題

「互いに仕え合う」

聖句 兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。

ガラテヤの信徒への手紙 5章13節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. キリストの体なる教会形成に参与する。
 3. 教会創立20周年記念に備える。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

横浜市港南区港南台7丁目8-29

郵便番号 234-0054

電話 045-833-5323

F A X 045-833-6616

振替 00290-4-13994

牧師 秋 吉 隆 雄